

Mémoire 2024

第41回フェブラリーステークス(GI)



砂上に咲いた6歳の「新鋭」 ペプチドナイル

11番人気の低評価を覆し、重賞初制覇をGIで達成した。

前年の覇者レモンポップ、ドバイワールドCや東京大賞典の覇者ウシュバテソーロは中東遠征で不在。1番人気には重賞未勝利馬ながら東海Sで2着と好走してきたオメガギネスが推された。また地方競馬からは大井の南関東三冠馬ミックファイアや、東京シンデレラマイル連覇の牝馬スピーディキック(浦和)、JBCスプリントなど交流重賞4勝の兵庫のイグナイターが参戦。初ダートのガイアフォースやシャンパンカラーらも含め、絶対的な中心がいない分、興味深いメンバーが揃う一戦となった。

レースは東京盃などダート短距離重賞2勝の巨漢快足馬ドンフランキーが飛ばし、1000m通過57秒9というハイペースとなった。この逃げを直後で追走するのはウィルソントソーロ、ドウラエレーデ、イグナイター、ペプチドナイル。4コーナーを回ると外のペプチドナイルが力強く前に出ていき、残り200mで先頭に立つ。後方からはガイアフォース、セキフウ、タガノビューティーらが追い込んでくるが、ペプチドナイルの脚取りは衰えず、激しい2着争いに1馬身1/4差をつけて

ゴールを駆け抜けた。

ここまで1700m以上ばかりを走ってきたペプチドナイルは重賞では4着が最高で、GIはこれが初出走。11番人気という低評価だったが、藤岡佑介騎手が「馬のリズムさえ守っていけば力強く、長く脚を使える馬」と語った通りの走りで見事に大輪の花を咲かせた。

開業7年目の武英智調教師は、騎手時代を含めGI初制覇。「体質が強くなかった馬なので長い距離でゆったり走らせてきましたが、今ならマイルでもいいかなと思っていました」と密かな自信を抱いて臨んだ一戦で、6歳の「新鋭」が大波乱の立役者を演じるとともに、新たな砂のマイル王の座に就いた。

第41回フェブラリーステークス(GI)

2/18 東京競馬場 1600m(ダート・左) 晴・良 16頭

着順	馬名	性別	年齢	斤量	騎手名	調教師名	タイム/着差	人気	通過順位
1	ペプチドナイル	牡	6	58	藤岡 佑介	武 英智	1:35.7	⑪	④④
2	ガイアフォース	牡	5	58	長岡 禎仁	杉山 晴紀	1 1/4	⑤	⑧⑧
3	セキフウ	牡	5	58	武 豊	武 幸四郎	クビ	⑬	⑭⑭
4	タガノビューティー	牡	7	58	石橋 脩	西園 正都	ハナ	⑦	⑪⑨
5	キングズソード	牡	5	58	岩田 望来	寺島 良	1/2	④	⑪⑫

ペプチドナイル
栄光の蹄跡

9

キングカメハメハ 107 M
ペプチドナイル
クイーンオリブ(マンハッタンカフェ)
2018.4.24 生 浦河・杵臼牧場



牡6 藤岡 佑介
1986.3.17生 B型
58 沼川 一彦氏
武 英智(栗東)

2024.1.21 京都
東海テレビ杯東海SGⅡ
16ト 3人 6(106)
57*。 藤岡 佑介
ダ1800重 1:49.7

2023.12.28 阪神
ベテルギウスSL
15ト 2人 1(107)
59*。 藤岡 佑介
ダ1800良 1:52.1

2023.11.26 京都
カノープスS
16ト 2人 7(100)
58*。 富田 暁
ダ1900良 1:58.1